

課題 ①

漁港利用者 漁船・水産事業者

しゅんせつ工事時期が遅れると、漁港内の土砂堆積により、船の航行に支障をきたす。

自治体の年度予算の都合で、2年間漁港が使えなかつたこともある。

課題 ②

漁港管理責任者 都道府県等 地方自治体

全ての魚港や港湾は、不定期にしゅんせつ工事を必要とするが、工事計画を策定するための数値根拠が乏しい。

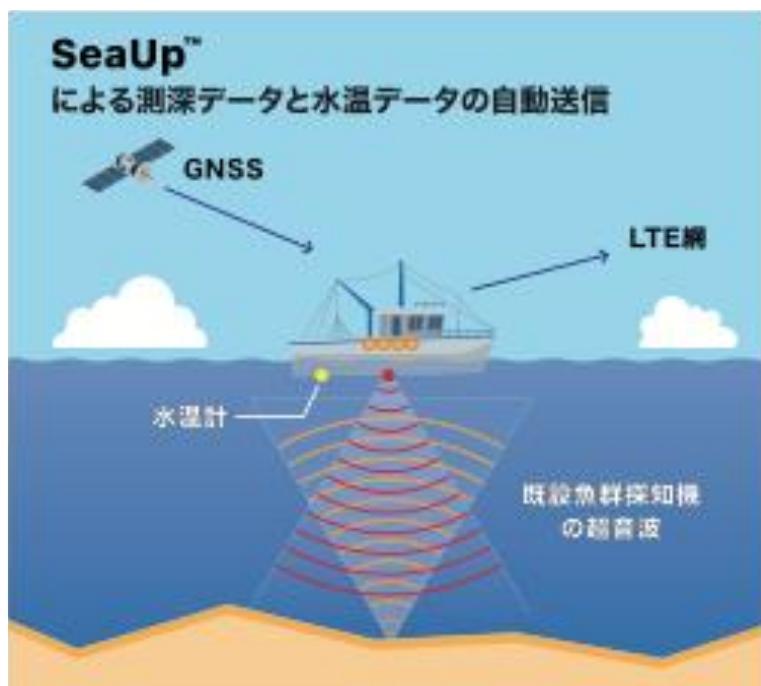
関係者への説明に苦慮し、庁内裏議にも時間を要している。

技術・ソリューション：漁船データをビッグデータ化「SeaUp」 海のGIS「SeaUp+」

SeaUp⁺
Submarine Topography
Surface Temperature
Payao Navi 2021

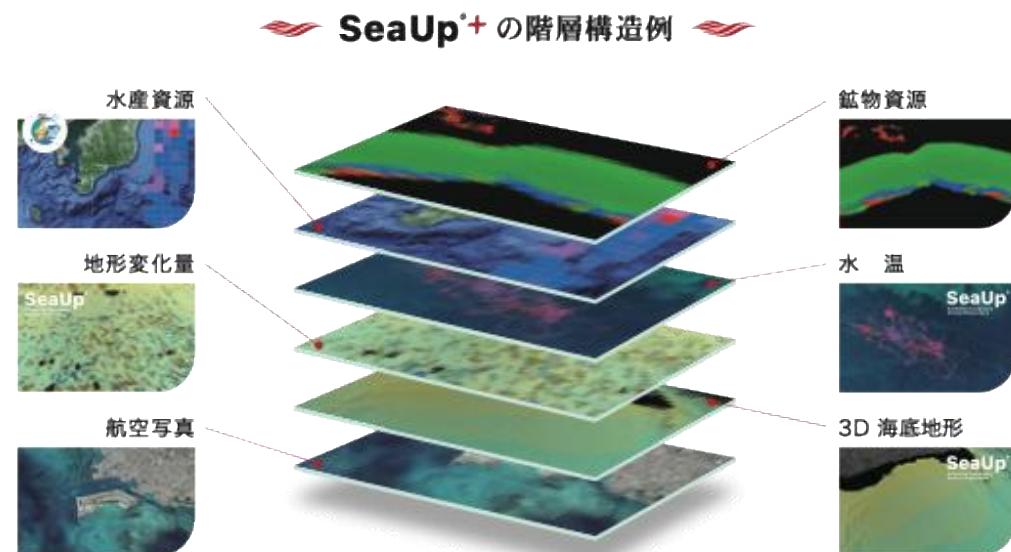
SeaUp[®]
Submarine Topography
Surface Temperature

漁船内の既存の魚群探知機を利用。水深情報と水温センサー等の漁船データをアップサイクルし現場で役立つ精度の海底地形情報や環境情報をクラウド化します。



SeaUp⁺
Submarine Topography
Surface Temperature
Payao Navi 2021

環境情報や水産・鉱物等の海洋資源を管理・加工し、空間的にWEBアプリで可視化する海のGIS。
さ仮想化情報と地理的情報を融合した海中のデジタルツインを提供します。



海中のデジタルツインとビジネスモデル

水産事業者



漁船データのクラウド化

メリット1（社会課題の解決）

- 土砂堆積状況を定量的に把握
- 渔港利用の安全性向上
- 工事コストの削減を実現

メリット2（漁業者の動機づけ）

- 渔場の3Dマップにより
漁業の生産性を向上させる

地方自治体

メリット3（仮想空間利用）

- 海中のデジタルツイン化
- 構造物や藻場を仮想化

メリット4（気候変動対策）

- 海水温の経年変化を共有

養殖事業者

漁業事業者

研究団体

